

大空 (生徒・保護者向け) 30号

宮崎県立宮崎西高校・宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 校長通信

令和3年3月1日(月)

逆風に立ち向かう獅子たれ(高校卒業式式辞)

□本日の概要

- 高校生活の本当の価値が分かるのは、卒業して5年、10年後であり、しかも何らかの試練に立ち向かっている時である。
- 歌手さだまさし氏は、挫折し体調を崩していた時にアフリカでの医療活動に従事した柴田医師と出会い、再起し「風に立つライオン」を創った。この曲には、苦しみや悩みでいっぱいの時、くじけないで欲しいというメッセージが込められている。
- 皆さんは多くの試練に出会うが、失敗や困難を恐れず、世界を視野に飛びだって欲しい。風に立つライオンのように、試練に雄々しく立ち向かい、乗り越える人であって欲しい。

例年になく厳しかった今年の寒さも和らぎ、校庭のヤマザクラに春の訪れを感じるこの佳き日に、PTA会長、請関八芳様のご臨席を賜り、ここに第45回卒業式を挙げて下さることは、私たち教職員一同、誠に喜びに堪えないところであり、厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、お子様の成長を見守られ続けた保護者の皆様におかれましても、今日の感慨はひとしおのことと思います。高校時代というものは、子どもたちの成長の中でも、とりわけ大きな変化があり、人生を決定する大きな決断が迫られる時であります。お子様に寄り添い、励ましてくれた皆様がおられたからこそ、子どもたちは、今日の旅立ちの日を迎えることができたのだと思います。私たち教職員にとりましても、私たちが生徒の指導に全力を尽くすことができましたのは、保護者の皆様のご理解とご協力あつての賜です。この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、卒業生の皆さん、皆さんにとって、この宮崎西高校での生活はどうだったでしょうか。今、様々な感慨があることと思いますが、高校時代の本当の価値が分かるのは、今から5年、10年先になってからであり、さらに言えば、順調な人生を送っている時よりは、むしろ何らかの試練に出会っているときなのです。

高校卒業後、5年後から10年後の自分をイメージして下さい。5年後は23歳です。大学に進学した人も卒業、あるいは大学院等へ進学し、次のステージが始まっている時です。さらに10年後、君た

ちは28歳です。結婚し、子供がいる人もいるかもしれません。いずれにしても、自立して、社会の一員として生きているはずですよ。これからの10年、楽しいこともあるでしょうが、それ以上に、皆さんは多くの試練と出会います。試練に立ち向かい乗り越える力、いわば人間力は、高校時代の学業や部活動等の様々な活動において培われたものです。特に、コロナ禍にあった皆さんは、大きな試練の連続でした。私は、皆さんに、「試練が人間力を高める」ということを繰り返し伝えましたが、どんなに厳しい試練であっても、皆さんは本校での活動を通じ、多くの力を身につけています。どんなに逆風が吹こうとも、自信を持って試練に立ち向かってください。

試練に立ち向かい、多くの人を支え続けた人に、宮崎出身の柴田紘一郎さんという外科医がいます。彼は、宮崎から長崎大学の医学部に進学し、そのまま長崎大学に残り、研究者になります。そして、1971年、柴田医師は31才の時にアフリカのケニアにある長崎大学熱帯医学研究所に出向き、約3年間、現地での医療奉仕に従事しました。現在でもアフリカの医療環境は決して充実しているとはいえませんが、もう50年ほど昔になる当時は更に大変だったようで、柴田医師は、乏しい設備の中、専門の外科の手術だけでなく、あらゆる分野の治療に全力を尽くしました。

約3年間のアフリカ派遣の後、柴田医師は長崎に戻り、ある青年と出会います。その青年は当時まだ20才。彼は、長崎の小学校を卒業後、クラシック音楽のバイオリン奏者を目指し、単身上京し修行をしていましたが挫折します。その後、彼は音楽の道を諦め、違う分野の東京の大学に進学しますが、アルバイト等での厳しい生活で体を壊し、故郷長崎に帰っていたのでした。

ある縁で青年は柴田医師と出会います。彼は、柴田医師から、仕事に対する厳しさ、アフリカ医療にかける熱い思い、アフリカの大自然の素晴らしさを聞き、深く感動します。柴田医師に元気をもらった青年は、「グレープ」という名前の2人組のデュオを結成し、発表した「精霊流し」という曲が大ヒット、メジャーになります。彼は、その後グループを解散して独立し、歌手、「さだまさし」として精力的に音楽活動に取り組むようになり、現在に至ります。

さだまさしさんは、この柴田医師のことをモデルとして、いつの日か曲を作りたいと心の中で温め続

けていました。これが「風に立つライオン」として発表されたのは1987年ですから、彼が柴田医師に出会って15年以上たったのことでした。柴田医師は、宮崎大学医学部勤務、そして県立日南病院の院長などを歴任しました。今はもう80歳くらいのご高齢ですが、現在も介護施設の施設長を務め、宮崎大学医学部で講義をされています。宮崎県からは、柴田医師の教えを受けた多くの医療従事者が育ち、宮崎だけでなく、様々な国々で、世界の医療を支えています。また、さだまさしさんの「風に立つライオン」は、現在も多くのNGOあるいはNPOの人たちを勇気づけ、また医師となって開発途上国に奉仕する人々や、国際協力事業団（JICA）、青年海外協力隊（JOCV）などをとおして、海外でボランティア活動に従事する人々を生み出しています。

この曲は、アフリカに勤務する日本人医師が、日本に残してきた恋人から受け取った手紙への返信という形をとっています。恋人からの手紙は、日本で別の男性と結婚するという内容でした。遠く日本に残してきた恋人への思いを込めながら、彼はこうしたためます。

突然の手紙には驚いたけど嬉しかった
何より君が僕を怨んでいなかったということが
これから此処で過ごす僕の毎日の大切な
よりどころになります ありがとう ありがとう

ナイロビで迎える三度目の四月が来て今更
千鳥ヶ淵で昔君と見た夜桜が恋しくて
故郷ではなく東京の桜が恋しいということが
自分でもおかしい位です おかしい位です

三年の間あちらこちらを廻り
その感動を君と分けたいと思ったことが沢山あり
ました

ビクトリア湖の朝焼け 100万羽のフラミンゴが
一斉に翔び発つ時 暗くなる空や
キリマンジャロの白い雪 草原の象のシルエット
何より僕の患者たちの 瞳の美しさ

この偉大な自然の中で病と向かい合えば
神様について ヒトについて 考えるものですね
やはり僕たちの国は残念だけれど何か
大切な処で道を間違えたようですね

去年のクリスマスは国境近くの村で過ごしました
こんな処にもサンタクロースはやって来ます
去年は僕でした
闇の中ではじける彼等の祈りと激しいリズム
南十字星 満天の星 そして天の川

診療所に集まる人々は病気だけれど
少なくとも心は僕より健康なのですよ

僕はやはり来てよかったと思っています
辛くないと言えば嘘になるけど しあわせです

あなたや日本を捨てた訳ではなく
僕は「現在」を生きることに思い上がりたくないの
です

空を切り裂いて落下する滝のように
僕はよどみない生命を生きたい
キリマンジャロの白い雪 それを支える紺碧の空
僕は風に向かって立つライオンでありたい

くれぐれも皆さんによろしく伝えて下さい
最後になりましたが あなたの幸福を
心から遠くから いつも祈っています

おめでとう さよなら

さだまさしさんは、この歌についてこう語っています。「ライオンというイメージは、医師というよりも一人の人間として捉えてくれるといい。心の中で、悩みも苦しみもいっぱいの時でも、くじけるもんかという意味で、自分自身を励ます意味がある。逆境の中でもひるむことなく、心だけは王様のような強い心をなくしたくないという人間の尊厳や、自分の意思に誇りを持ちたいという気持ちを示している。」と。

皆さんは、これからの多くの試練に出会います。でも、失敗や困難を恐れなくてください。小さくまとまらずに、世界中を視野に飛び出して行ってください。

これは、故郷、宮崎を忘れるという意味ではありません。ブーメランという道具があります。ブーメランは、思い切って遠くに飛ばすと、回転しながら弧を描いて、投げた人の所に戻ってきますが、逆に近くをめがけて投げても戻ってきません。また、ヤマメというサケ科の川魚がいます。体長20センチほどの魚ですが、川で縄張り争いをして、勝ったヤマメはそのまま故郷の川に残ります。負けたヤマメはどうするかというと、中には海まで下るものがあります。海に到達し、荒波にもまれ、生存競争に生き延びたヤマメは、何と体長が60センチもあるサクラマスになります。そして、再び力強く故郷の川を遡り、産卵のために戻ってくるのです。

皆さんが新たな知識や技術を身につけ、さまざまな経験を積み、大きな人間になり、故郷に、日本に、あるいは世界のどこかに新しい風を吹かせてください。

皆さん、どうか、風に立つライオンのように、試練に雄々しく立ち向かい、乗り越える人になってください。10年後、一回りも二回りも大きく成長した君たちと出会い、皆さんと大人同士の握手をする日がくることを期待して、私の式辞といたします。